

すぎなみせいそう 杉並清掃工場クイズにチャレンジ!

すぎなみせいそう 杉並清掃工場のしくみは、だいたい分かったかな? それでは、せいそう 清掃工場のクイズにチャレンジ!
分からなくなったら、前のページをもう一度見てみよう。答えがかくれているよ。全問正解を目指そう!

Q1. プラットホームには何が運ばれる?

- ① テレビや冷蔵庫
- ② 空きかん
- ③ 可燃(燃やせる)ごみ

Q2. ごみは燃えて灰になると大きさはどのくらい小さくなる?

- ① 20分の1
- ② 10分の1
- ③ 5分の1

Q3. ごみバンクには約何立方メートルのごみをためられる?

- ① 20,000 立方メートル
- ② 12,000 立方メートル
- ③ 5,000 立方メートル

Q4. 工場でごみを燃やした時の熱を利用してない施設はどこ?

- ① 体育館
- ② あし湯
- ③ プール

Q5. ごみを燃やす時の温度は何℃以上?

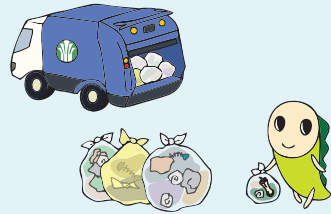
- ① 800℃
- ② 500℃
- ③ 100℃

Q6. 煙突の高さは何メートル?

- ① 250メートル
- ② 160メートル
- ③ 100メートル

Q7. 東京でごみが急激に増えた結果、昭和40年代におきた人とごみをめぐる出来事は何と呼ばれた?

- ① ごみゼロ戦争
- ② 東京ごみ戦争
- ③ 清掃工場戦争



❖ ごみの分別クイズに挑戦しよう! ❖

すぎなみせいそう 杉並清掃工場には、分別クイズに挑戦できるコーナーがあります。ごみの分別の達人を目指してクイズに挑戦してみよう!



※この「清掃情報紙ごみバックン小学生版」を読み終えて処分する時は、古紙(雑がみ)として資源回収にお出してください。



ごみバックン 小学生版 みどり豊かな 住まいのみやこ

杉並区の清掃情報紙
編集・発行
杉並区環境部ごみ減量対策課
〒166-8570
杉並区阿佐谷南1-15-1
電話 03-3312-2111(代表)
令和4年7月発行



すぎなみせいそう 杉並清掃工場ってどんなところ?



東京二十三区清掃一部事務組合
杉並清掃工場



すぎなみせいそう 杉並清掃工場には、みんなが出した可燃(燃やせる)ごみが運ばれ、昼も夜もごみを燃やし続けています。ごみは、燃えて灰になると大きさは約20分の1になります。その灰をセメントの原料に使ったり、燃やした時に出る熱で発電したり、お湯を作ったりして、地球温暖化防止にも取り組んでいます。

すぎなみせいそう 杉並清掃工場ができた歴史や、可燃(燃やせる)ごみがどのように処理されているのか見てみましょう!



杉並清掃工場のしくみ

杉並清掃工場では、生ごみなどの可燃（燃やせる）ごみを燃やし、いろいろな公害防止設備でガスをきれいにしてから煙突におくっています。

① ごみ計量機

運びこまれたごみの重さをはかります。

② プラットホーム

ごみ収集車がごみをごみバンカに入れます。

③ ごみバンカ・ごみクレーン

ごみバンカには約12,000立方メートルのごみがためられます。ごみクレーンでごみを焼却炉へ運びます。



④ 焼却炉

ごみを800℃以上の高温で燃やします。ごみを燃やすことで、においやばい菌の発生を防ぎます。



⑤ ボイラ ※1

焼却炉から発生する排ガスの熱で蒸気を発生させます。



⑥ 蒸気タービン発電機

蒸気でタービン発電機を回してたくさんの電気を作ります。

⑦ ろ過式集じん器

排ガスの中のすすなどを取り除き、きれいにします。

余熱を利用した環境学習施設「高井戸の里あし湯」※2



⑧ 洗煙設備

排ガスを薬品で洗ってきれいにします。

⑨ 蒸気式ガス再加熱器

排ガスに残っている有害物質を分解します。

⑩ 触媒反応塔

排ガスに残っている有害物質を分解します。

⑪ 汚水処理設備

汚れた水をきれいにします。

⑫ 煙突

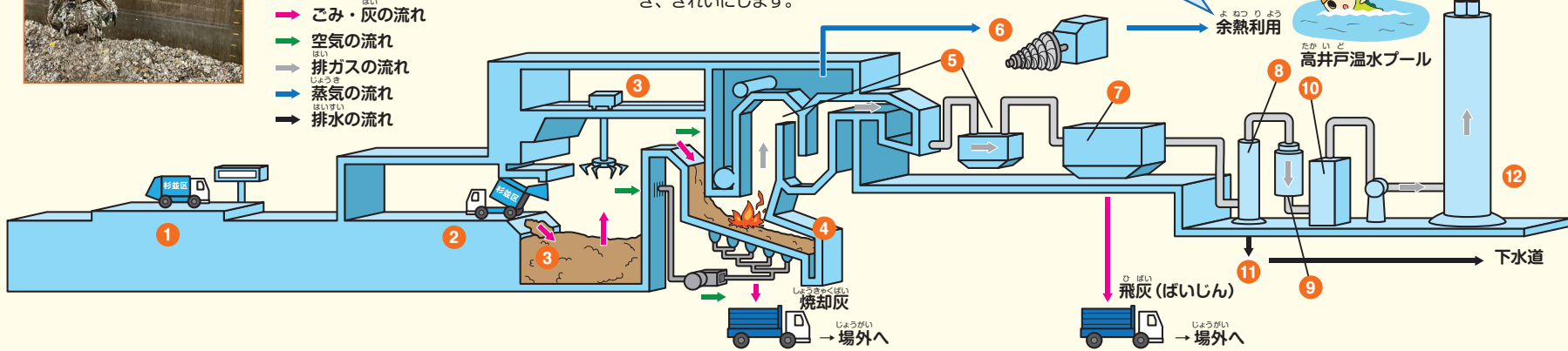
（高さ160メートル）



中央制御室 ※3



24時間、工場内の機械を監視し、コントロールしています。



- ごみ・灰の流れ
- 空気の流れ
- 排ガスの流れ
- 蒸気の流れ
- 排水の流れ

※1～3 写真提供：杉並清掃工場

東京ごみ戦争とは？



日本経済が急成長した昭和30年(1955年)頃から昭和48年(1973年)頃、東京では大量生産大量消費によりごみの量が急激に増えました。そのため、燃やしきれないごみは、そのままの状態で見捨てられていました。埋め立て地の近くでは、八工や蚊の大量発生や収集車から出る汚水による悪臭などの被害が深刻化しました。そこで、東京都は衛生的に処理ができる清掃工場を各区に建てようと計画しますが、建てる場所やその周辺での反対運動など思うように進まない状況でした。このように人とごみをめぐる出来事は「東京ごみ戦争」と呼ばれています。

杉並清掃工場はどうしてできたの？



昭和41年(1966年)、東京都が高井戸に清掃工場を建てることをいきなり発表したため、高井戸の住民が大反対し、9年にわたる反対運動が始まりました。住民と東京都は何度も話し合いを重ねた結果、住民が出した様々な条件を東京都が受け入れ、昭和57年(1982年)、当時もっとも新しい設備等を備えた清掃工場ができました。高井戸の住民による運動は、杉並区民だけでなく都民のごみに対する意識を大きく変えるきっかけにもなりました。

平成29年(2017年)に建て替えられた2代目の清掃工場は、「地域にだけ込み、信頼される清掃工場」を目指し、建物の屋上や壁などに植物が植えられ、住民から要望のあったウォーキングロードが作られました。また、高井戸温水プールやあし湯は、工場でごみを燃やした時の熱を利用しています。



東京ごみ戦争歴史みらい館

杉並清掃工場には、東京ごみ戦争の背景や、杉並清掃工場ができるまでの歴史を学習できる「東京ごみ戦争歴史みらい館」があり、見学することができます。



杉並清掃工場では、ごみを処理する工程をガラス越しに見ることができる工場見学を行っています。(土・日・祝日・年末年始・定期点検補修工事期間を除く) くわしくは、杉並清掃工場(電話 03-3334-5301)まで、お問い合わせください。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、見学を休止する場合があります。

東京二十三区
清掃一部事務組合
HP

